

放射線治療科研修プログラム

G10

放射線治療は日本人死因の第 1 位の悪性腫瘍の基本的な治療方法の一つである。この領域の頻度の高い疾患・病態について理解し、現場で求められる手技を確実に身につけることで、高精度放射線治療センターにおいて放射線治療を実践できることを目標とする。

さらに、放射線治療科では病棟もあるため、がん診療に必要な画像診断・臨床検査・診察ができるようにする。

SBOs

1. がん患者の診察ができ、記載ができる
2. がん患者の画像診断の適応が判断でき、結果の解釈ができる
3. 腫瘍マーカーの検査の適応・限界を理解し、結果の解釈ができる
4. 中枢神経の放射線治療において、全脳照射・拡大局所照射・定位照射の適応を理解し、治療方針を立てられる。
5. 泌尿器科領域の
6. 良性疾患の放射線治療について知識を得て、コンサルトに応じることができるようになる
7. 緩和照射について適応が判断でき、自ら上級医の監督のもと実施ができる。

LS

1. 放射線治療

上級医/指導医の元、放射線治療計画を作成する。計画を作成ための手段として、診察・画像評価・放射線治療の目的について知識を習得する。

2. カンファレンス

①高精度放射線治療センターカンファレンス（毎週水曜日 17:30）放射線技師・看護師を含めたカンファレンス

EV

1. 上級医/指導医の元、骨転移の放射線治療計画の作成（担当期間中にない場合は過去症例を用いる）
2. 上級医/指導医の元、根治的前立腺がんの放射線治療計画の作成（担当期間中にない場合は過去症例を用いる）
3. 放射線技師／看護師による評価
EPOC による評価